第6回 県央圏域の地域相談と精神科医療の合同研修の報告

県央障害福祉圏域地域生活ナビゲーション（以下、県ナビ）と県央支部による合同研修会をオンラインで行いました。精神科病院のソーシャルワーカーと県ナビ、地域事業者がともに地域課題について悩み合える機会となりました。

日 時　　令和6年1月11日（木）14時00分～16時00分
開催方法　オンライン（ZOOM）
参加者　　精神科病院5か所　MHSW6名
　　県央障害福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター　1名
　　大和市、海老名市、綾瀬市の地域相談事業 7か所 12名

（報告内容）
県央障害保健福祉圏域ナビゲーションセンターの八重樫氏から今までの研修会を振り返りながら医療側と地域支援者側が感じている課題を考える機会となりました。

県央支部からは、５か所の精神科病院の紹介があり、「年末年始の実際のベットの稼動状況と課題」「児童思春期に対応する医療機関の少なさ」について、地域支援者側から「グループホームにおける支援者のスキルの問題」などお互いが気になる課題についてざっくばらんに共有することが出来ました。

今回の研修テーマとしては、県央支部長の石川氏に作成して頂いた「自傷行為リスクのある境界性パーソナリティー障害」の方という架空事例をもとに２つのグループに分かれて検討しました。医療側が求める退院支援の実情や課題、地域支援者側の医療側に求める治療への期待と現実などが見えてきました。医療側の様々な専門職が外部関係者に技術を分かりやすく伝達するスキルが求められる、地域支援者側からも医療側が出来ないと感じていることも話し合える姿勢を持つ必要があるといった意見がありました。病院内での医療側の常識を理解しながらお互いが“ぶっちゃけて話せる”より良い関係を築いていきたいと地域支援者側からも熱意のある声が上がっていました。

適切な医療を維持して更なる発展を目指すためには、精神科病院の MHSW が地域支援者と話合える場を構築することは必要不可欠といえます。今回の研修を県央障害保健福祉圏域ナビゲーションセンターと一般社団法人神奈川県精神保健福祉士協会の県央支部が共同開催している点が最大限活かされていると思いました。

次年度は、医療側「各病院の入退院対応状況」や地域支援者側の「地域の支援者のスキルアップ」など、参加者の意見に合わせた合同研修会にしていきたいです。

県央支部